

# 短期講座

## 91. 海外から見た日本文化を学ぶ講座

開催日:水曜日 時間:14:00~16:00 会場:大阪歴史博物館

講義の目的	コロナが一段落し、街を歩くと海外の方の多さに驚きます。外国人の人気NO1は大阪城です。彼らは日本をどう思っているのでしょうか。我々は海外の方に日本文化をどの位説明出来るのでしょうか。我々が知らない日本文化の不思議さ、良さを専門的に研究されている海外の研究者の方から学ぶことで眼から鱗が落ちます。
-------	---

回	月	日	テーマ	概要	講師
1	4	10	「日本哲学と台湾哲学」		国際日本文化センター 外国人来訪研究員(中山大学哲学系教授) 廖 欽彬
2	4	24	「方丈記」	本講義では、日本の古典文学である『方丈記』がいかにかして海外に紹介され、どのように日本とは別の形で海外で読まれたのか、具体例を提示しながらみていきたい。	龍谷大学世界仏教文化研究センター 博士研究員 ブラダン・ゴウランカ・チャラン
3	5	8	「南方熊楠」	本講義では、博覧強記として知られる南方熊楠の国際的な活動に触れつつ、彼の『方丈記』共訳を事例に、熊楠が『方丈記』をどのように理解し、そしてどのように海外に紹介しようとしたのかについて紹介する予定である。	龍谷大学世界仏教文化研究センター 博士研究員 ブラダン・ゴウランカ・チャラン
4	5	22	「宣教師と日本文化」		同志社大学グローバル地域文化学部助教 ペレズ・リオボ・アンドレス
5	6	12	「日本文化における「縁起」概念ー日常から哲学へ」	日本語では、「縁起」という言葉は日常的に用いられている。例えば、「縁起が良い」「縁起物」などのような表現がいくつかある。「縁起」という語は日本文化の構造とその歴史に深く関連している。インド仏教に由来する「縁起」概念は、もともと「因果」または「運」と微妙に違うアイデアであった。またこの概念は、現代日本哲学の重要な概念の一つでもあり、殊に於いて西田幾多郎の弟子であった山内得立(1890-1982)の『ロゴスとレンマ』(1974年)では、主要概念の一つであると言える。本講義では、「縁起」という語の日常的用法、「縁起」概念の歴史(特にpratītyasamutpādaというサンスクリット語の意味とその漢訳)、そして山内哲学における解釈を検討し、この概念の現在意義について論じる。	京都大学人文科学研究所連携研究者 フランスの国威哲学コレージュのプログラム ディレクター ロマリク・ジャネル
6	6	26	「日本のアニメや漫画のコスプレ文化」		関西学院大学語学教育研究センター 非常勤講師 アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス
7	7	24	「白黒の色彩からみる日本文化ー韓国文化との比較の視点からー」	東アジアの陰陽五行説に基づき、白黒という色彩の意味合いから日本文化の有り様を述べるが、日本文化の特徴を鮮明にするため韓国との比較の視点から追究する。一般的に日本社会は物事に対するはっきりとした意見を表さない曖昧さが目立つ文化であると言われるが、そのことの詳細を明確にする。	甲南大学 全学共通教育センター 教授 金 泰虎
8	7	31	「日本の独特な食事作法ー日韓の食具が果たす役割を中心にー」	日本社会は茶碗とお椀を手にとって食事をするユニークな食事作法を有している。一方、韓国をはじめとする多くの国では食器を手にとって食事をする習慣はあまり見られない。この日本の食事作法の形成に、いかなる要因が関わっているのかを追究するが、日本と韓国の歴史にみる食具の使い方を調べ作法の形成を明らかにする。	甲南大学 全学共通教育センター 教授 金 泰虎